

# 第1回及び第2回懇談会における意見一覧

# 資料 1

No.	開催回	主な分野	発言者	ご意見・お考え（次期計画への検討事項）
1	第1回懇談会	人口、少子高齢化	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	八王子市において少子高齢化の問題を考える際には、市全体で考えるだけでなく、地域別の状況を考えることも重要である。
2	第1回懇談会	人口、少子高齢化	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	高齢の単独世帯や高齢の夫婦世帯の増加が問題である。単独世帯には、学生の一人暮らしや未婚者も含まれるが、高齢者も含まれている。また、夫婦のみ世帯も夫婦の片方又は双方が高齢者という世帯が増えていることにも着目する必要がある。
3	第1回懇談会	人口	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	八王子市の人口は近年微増しているが、楽観視できない状況である。
4	第1回懇談会	人口、少子高齢化	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	八王子市では、高齢者人口が増加する傾向にあるが、中でも後期高齢者の人口が増加することも勘案し施策展開を検討する必要がある。
5	第1回懇談会	人口、少子高齢化	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	人口を維持するという観点では、合計特殊出生率と出産適齢期の女性の人口という2つの視点が重要だが、どちらも減少傾向にあることから、人口の自然増減について深刻な問題があると言える。
6	第1回懇談会	人口、少子高齢化	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「40～44歳」の未婚率が増加傾向にある。日本では、欧米諸国と比較すると「結婚して、出産」という考え方が強いため、未婚化・晩婚化・非婚化の進展は人口問題につながる課題である。
7	第1回懇談会	人口、雇用	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	今後、市民が市内で就業すること及び市外在住者が市内で就業ことの促進に向けてどのような取組が求められるか検討が必要である。
8	第1回懇談会	全体、人口、コミュニティ	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	八王子市は市域を6つに区分することができ、それぞれ異なる地域特性を持っている。また、町丁別の人口密度や老年人口の地域差が大きい。各地域の特性を十分に考慮し、反映した計画にすることが求められる。
9	第1回懇談会	防災、コミュニティ	東京都立大学教授 市古太郎 氏	市内の自治会や町会では、65～69歳の年齢層の市民に地域防災活動の中心を担っていただいているが、地域の将来を考えると次の世代に円滑に引き継いで行けるような体制を築くことが重要であると考えている。
10	第1回懇談会	人口	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	人口が急速に増減すると財政やインフラの整備などに問題が生じる。
11	第1回懇談会	人口	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	人口増加が地域経済や財政面でまちを豊かにするか、という点で考えると、そういう面もあるが、生産性や産業特性なども考慮する必要があるため、一概に人口増加が良い、人口減少が悪い、ということとはできない。ただし、高齢者人口の増加や高齢者の「単独世帯」、「夫婦のみ世帯」が増加している現状では、高齢者福祉や介護保険の観点では少子化の結果として高齢化が進展するのは問題であるといえる。
12	第1回懇談会	人口	市民参加者 下村麻子 氏	人口増減や社会増減のデータより、「立川市」が魅力的に感じる。このような魅力的な都市が何をしているか参考にすることが必要である。
13	第1回懇談会	人口	高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏	人口減少や高齢化は日本全体の問題である。2040年のビジョンを作る際は経済規模や財政規模だけでなく、幸福度を考えることも重要であると考えている。
14	第1回懇談会	人口、高齢者福祉	法政大学教授 淵元初姫 氏	人口構造についても議論する必要があると感じた。高齢者単独世帯の要因として、未婚だけでなく、死別や離婚などの要因も含まれる。近居の親戚・家族の有無などで生活の仕方が変わってくると考える。
15	第1回懇談会	人口、産業、雇用	法政大学教授 淵元初姫 氏	新型コロナウイルス感染症拡大によるリモートワークの普及に伴う再郊外化についても検討していく必要があると感じる。
16	第1回懇談会	人口、少子高齢化	八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏	生産年齢人口の上限を70歳としてもいいのではないかと感じる。
17	第1回懇談会	人口、少子高齢化	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	テーマによっては、年少人口・生産年齢人口・老年人口以外の区分で検討する必要性を感じている。
18	第1回懇談会	公共交通、子育て	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	子育てしやすい環境づくり、自然の豊かさという観点では、八王子市は優位性があると感じている。ただし、市内の自然豊かな場所は駅から離れている場合が多いため、公共交通を整備する必要があると感じている。
19	第1回懇談会	観光、中心市街地、産業	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	労働人口が減少することで、財政面での厳しさが増すため、解決策の案として交流人口の増加にも取り組んでいく必要がある。交流人口の増加のために観光地の活性化や中心市街地にできる多摩産業交流拠点を核としたMICEなどにも注力していく必要がある。
20	第1回懇談会	人口	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	人口は重要なテーマではあるが、増えすぎること良くない、減りすぎても良くないという問題があり、人口の量と質の双方の視点を持つことが大切である。また、定住人口がすべてではなく、交流人口なども含めて検討していく必要がある。
21	第2回懇談会	都市計画	東京都立大学教授 市古太郎 氏	都市計画とは、人口を空間にどのように貼り付けるか、人口と土地との関係に着目して策定するものである。その点、八王子の都市計画はよくできていると感じているので、総合計画とこの都市計画を如何に融合させて総合的に高めていくのかという視点が大事だと思う。

No.	開催回	主な分野	発言者	ご意見・お考え（次期計画への検討事項）
22	第2回懇談会	都市計画	東京都立大学教授 市古太郎 氏	都市計画は、「ものづくり」を通して「ことづくり」を実現する営みである。
23	第2回懇談会	都市計画	東京都立大学教授 市古太郎 氏	人口と土地と建物の関係は「密度論」として都市計画で理論化されている。これらの関係を適切な指標でモニタリングし、空間をマネジメントしていく。
24	第2回懇談会	都市計画	東京都立大学教授 市古太郎 氏	人口が減っていく中で、実は相関的に土地の利用密度が低下する訳ではない。人口減少に合わせて、どのように投資をしたらよいか、というのが都市計画の大事な検討事項である。
25	第2回懇談会	都市計画	東京都立大学教授 市古太郎 氏	市街化区域と市街化調整区域について、八王子市は地方都市と比較すると人口密度は高いと言える。
26	第2回懇談会	都市計画	東京都立大学教授 市古太郎 氏	都市づくりビジョンでは市民の視点からはわかりづらい点もある。次期ビジョンの中で整合をとるべき点かもしれない。
27	第2回懇談会	コミュニティ	東京都立大学教授 市古太郎 氏	地域コミュニティは、2010年代は団塊世代が町会を担っているが、将来、その子供にあたる世代が担えるのかが課題になっている。
28	第2回懇談会	防災	東京都立大学教授 市古太郎 氏	東日本大震災を契機に、震災の際、頼るべき家族がすぐに帰ってこられず、隣人関係の薄い地域でも対策を考える必要性が生じている。
29	第2回懇談会	都市計画	高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏	居住誘導区域を開発していくという話があった。現存の居住区域の高齢化が進んでいくと過疎化が進んでいくのではないかと。高齢者が駅前のような便利なところに移り住み、若い人が郊外に住むような政策も必要ではないか。
30	第2回懇談会	防災・コミュニティ	東京都立大学教授 市古太郎 氏	高齢者を対象に災害で家がなくなったらどうするかという質問をしたところ、便利なところに引っ越すことを検討する、と回答された方が7割ほどだった。高齢者が中心市街地に住みたいというニーズはあるため公的にどのように支えていくのか、市として検討していく必要があると考える。
31	第2回懇談会	高齢者福祉・雇用	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	団塊ジュニア世代は就職氷河期世代、ロスジェネ世代と、他の世代と比較して非正規雇用が多く、それにより生涯賃金や年金が低く、貯蓄や婚姻率も低い傾向がある。そのため、高齢者世代の「貧困化」や「孤独化」が強まる可能性が高く、生産年齢人口にかかる重みが量的な面だけでなく、質的にも増加することが危惧されている。
32	第2回懇談会	高齢者福祉・雇用	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	高齢者も就労やボランティア活動など様々な形でできるだけ社会に貢献して「支える人」を増やすとともに、介護予防や健康を維持して「支えられる人」の重さを軽くする取組が必要である。
33	第2回懇談会	高齢者福祉・雇用	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	高齢者も意欲のある人には就労機会を増やすべく、70歳までの就業機会の確保が目標として示されている。就職氷河期世代については、高齢者になる前に早期に安定した就労につけるための支援が喫緊の課題である。
34	第2回懇談会	雇用	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	就労だけでなく、ボランティア活動等による社会参加の推進も「地域の支え合い」を促進する上で重要である。ボランティア活動や家事、孫の世話などは無償労働ではあるが、賃金に換算すればそれなりの金額になり、それを高齢者が担っていると考えると社会への重要な貢献になる。
35	第2回懇談会	雇用	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	女性の就労支援は、喫緊の課題である。
36	第2回懇談会	健康	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	健康寿命の延伸のためには高齢期になってからではなく、幼少期から健康増進に向けた取組を行う必要がある。例えば、給食を通じた食育の推進や健康問題が現れやすい貧困世帯への支援を行うことが求められている。
37	第2回懇談会	医療・福祉	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	生産年齢人口の減少に伴い、医療や介護を担う人材も今後一層減少すると考えられる。そのため、AIやDXを活用して少ない人材でも効率よく成果を上げる必要がある。
38	第2回懇談会	高齢者福祉	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	プロダクティブ・エイジングとは、ロバート・パトラーが提唱したものである。高齢者は生産性が低く医療介護が必要な存在だとする「エイジズム（年齢差別）」に反論し、有償労働のみにより生産性を判断するのではなく、高齢者が行っている多くの無償労働（家事・介護・ボランティア活動等）にも目を向けることで、高齢者は生産的＝「プロダクティブ」であることを主張している。これにより、高齢者が増えると社会の負担が増えるという「悲観的な考え方」から、高齢者の力を社会に活用できるという「積極的な考え方」への発想の転換を促そうとする概念である。
39	第2回懇談会	健康	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	プロダクティブ・エイジングを推進することで、高齢者が社会を支える側にまわることができ、生産年齢人口の減少への対応策になり得ること、さらにプロダクティブな活動を行うことで心身の健康に良好な効果が得られることから、医療や介護費用の抑制にもつながる効果が期待できる。
40	第2回懇談会	雇用・コミュニティ	八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏	就業できる年齢が上がることはよいことであるが、町会の役員になれる人が少なくなる懸念がある。就業先の理解を促進する必要があると考えている。

No.	開催回	主な分野	発言者	ご意見・お考え（次期計画への検討事項）
41	第2回懇談会	雇用	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	高齢者という枠組みではなくて知識のある方として扱うことも大切だと考える。
42	第2回懇談会	コミュニティ	法政大学教授 淵元初姫 氏	町会・自治会は、地域における重要な役割を担っているにも関わらず加入率が低下している。多くの自治体では自治会加入率が年1%ずつ低下しており、危機感を持つ必要がある。
43	第2回懇談会	コミュニティ	法政大学教授 淵元初姫 氏	町会・自治会への加入率の低下の要因として、住民の価値観の変化や近隣関係の希薄化、単身・共働き世帯等の増加、高齢による活動の負担感が考えられる。
44	第2回懇談会	コミュニティ	法政大学教授 淵元初姫 氏	八王子市では、単身世代、若年世代の町会・自治会未加入が問題としてあるため、単身世代、若年世代が町会・自治会に加入するメリットを訴求する必要がある。
45	第2回懇談会	コミュニティ	法政大学教授 淵元初姫 氏	2010年代以降は、3番目の居場所である「サードプレイス」づくりが活発化している。高齢者サロン、子ども食堂などがそれにあたる。コミュニティの中にサードプレイスはたくさんあったほうが望ましい。
46	第2回懇談会	コミュニティ	法政大学教授 淵元初姫 氏	外出自粛やリモートワークの推奨により、子育て世代の父親も昼間に自宅にすることが多くなっているように感じており、これが今後コミュニティにどう影響してくるか注視していきたい。
47	第2回懇談会	コミュニティ	法政大学教授 淵元初姫 氏	既存の集会所を利用して居場所を作ること大切であると考えている。
48	第2回懇談会	コミュニティ	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	町会・自治体の担い手はどうするのか、積極的に参加してもらうためにはどうしたらよいかテーマと考えている。
49	第2回懇談会	デジタル	明星大学教授 河合美香 氏	次期計画で見据えている2040年は、デジタルネイティブ世代が大人になっている年代である。
50	第2回懇談会	デジタル	明星大学教授 河合美香 氏	手順やルールがあるものはAIで代用できる可能性がある。一方で、判断が伴う職業は依然として人の手によると考えられる。生産年齢人口の減少などから、人間は「人間力」を活かしていけるように進んでいくべきではないか。
51	第2回懇談会	デジタル	明星大学教授 河合美香 氏	デジタル化には、セキュリティ、個人情報、停電・回線リスク等の問題がある。
52	第2回懇談会	デジタル	明星大学教授 河合美香 氏	デジタル化のプロジェクトを進めるにあたり、イノベーションと改善の視点が大切である。また、目的は何か、ということを念頭に考える必要がある。
53	第2回懇談会	デジタル	明星大学教授 河合美香 氏	DXにより問題を解決できるのか、投資回収責任をだれが負うかなども考慮していく必要がある。
54	第2回懇談会	デジタル	NPO法人八王子子ども劇場代表理事 浅野里恵子 氏	NPOなどの情報を随時更新ができるようなホームページや体制を市が構築する必要がある。
55	第2回懇談会	デジタル	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	デジタル化の目的は、生産性を向上させることだと考えている。サービス面の向上が結果的にコストダウンにつながり、財政的にゆとりが生まれ、新しい市民サービスにつながっていくと考える。
56	第2回懇談会	デジタル	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	デジタル化に拒否反応を示す世代がいることにも留意する必要がある。既存の方法とデジタルを併用することが大切であると考えている。
57	第2回懇談会	デジタル・教育	八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏	デジタルについては、市内に散在している外国人児童生徒への日本語指導にデジタル技術を活用していただきたい。現状では、市内に1箇所しかない夜間中学校での対応に加えて、公立小中学校では専門外の教師が対応している。不就学や、日本語力が身に付いていないため高校に行けない、または中退する児童生徒がいるという課題もある。外国人児童生徒への教育を積極的に行うことは、人件費のコスト削減、未来の人材育成、外国人高度人材の確保にもつながると考える。
58	第2回懇談会	防災	八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏	外国人の方の防災訓練への参加促進や外国人の方を防災のリーダーにする等の取組も進めていただきたい。
59	第2回懇談会	コミュニティ	東京工科大学大学事務局学務部部长 豊嶋信一 氏	サードプレイスという言葉が良いと感じた。八王子市においては学生の力を忘れてはいけないと考えており、学園都市八王子として学生という財産をコミュニティにつなげていけないか。
60	第2回懇談会	防災	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	防災について、補助金が出ない幹線道路以外の高層ビルの耐震補強問題をどのように対策していくかが課題である。
61	第2回懇談会	防災	こども食堂ふくろうはうす代表 細田明菜 氏	災害時、こども食堂が避難する場所になれば良いと考えたが、耐震等の課題がある。地域の町会の加入率が低下している今、こども食堂を災害時に集まれる場所にしたいと考えている。
62	第2回懇談会	デジタル	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	デジタル化を進めるにあたり、行政サービスを効率化させることは課題と考えている。企業サービスがデジタル化するというものは、目的や責任が明確だが、地域コミュニティでデジタルを進めるに当たっては、誰が責任を持ち、どの程度市が協力するのかということが課題と考えている。